

1. 実況上の着目点

- 高気圧が日本の南を東南東へ移動。別の高気圧が日本の東を東へ移動。帯状の高気圧を形成し、日本を広く覆っている。
- 500hPa 5400m付近のトラフに対応した低気圧が朝鮮半島付近を東進。気圧の谷が東北地方付近にあって近傍で1時間5mm前後の降水を解析。
- 500hPa 5040m付近の寒冷渦に対応した低気圧がオホーツク海を北西進。



2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項②の低気圧は5日朝までに前線が発生し、次第に500hPa 5040m付近で-42°C以下の寒気を伴うトラフに対応し、6日にかけて急速に発達しながら北海道付近を通過し、千島近海へ進む。前線は、6日夜にかけて北～東日本を通過する。低気圧と前線の通過後は、日本付近は冬型の気圧配置となり、6日朝までに日本海西部にシアーラインが発生する。5日夜までに南西諸島付近で前線が発生し、6日にかけて、本州の南の海上を通り、日本の東へのびる。北海道を通過する前線や低気圧の影響で、降雪が強まり、非常に強い風が吹き、しける所がある。北海道地方では6日は、暴風雪に警戒し、高波、大雪に注意・警戒し、東北地方では6日は、風雪に注意・警戒。北～東日本日本海側を中心に6日は、降雪による交通障害、着雪、なだれに注意し、北～西日本日本海側を中心に6日は、強風、風雪、高波に注意。また、前線や低気圧に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。北～東日本日本海側では6日にかけて、南西諸島では5日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 7日は、日本付近は冬型の気圧配置となる。南西諸島から日本の東にのびる前線上に、低気圧が発生し、日本の東へ進む。降水域が低気圧や前線から西～東日本日本海側へ広がり、降雪となる所がある。冬型の気圧配置の影響で、降雪が強まり、強い風が吹き、しける所がある。北～西日本日本海側を中心に7日は、降雪による交通障害、着雪に注意し、風雪、強風、高波に注意。北日本では7日は、大雪、風雪、高波に注意・警戒。8日頃は、上空に強い寒気が流れ込み、強い冬型となり、北～西日本日本海側を中心に、降雪量が多くなり、普段雪の少ない東～西日本太平洋側でも降雪となるおそれがある。大陸の高気圧の張り出しの縁辺で吹続時間・吹送距離の長い強い風の影響で、しける所がある。南西諸島では7日は、強風、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。
 ② 降雪量(06時からの24時間)：北海道30cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北5、北陸4、近畿・中国3m。

5. 全般気象情報発表の有無 「暴風雪と高波及び大雪に関する全般気象情報」を5時頃に発表予定。